

平成28年度 事業報告書

1. 一般情勢

わが国経済は、アベノミクスの推進により、マクロでは緩やかな回復を続けているものの、潜在成長率が低位に推移する下で、その回復力は力強さを欠いており、企業等の景況感も地域や規模によりばらつきが見られている。

特に地域経済は、高齢化や人口減少、空洞化といった構造的な課題を抱え、その担い手である中小企業の多くは、慢性的な人手不足に加え、為替変動に伴う生産コスト等の調整を強いられるなど、厳しい経営を余儀なくされている。

政府は、昨年8月に、「未来への投資を実現する経済対策」を閣議決定し、当面の需要喚起に加え、民需主導の持続的な経済成長と1億総活躍社会の着実な実現につながる施策を実施することとした。

一方、金融面をみると、マイナス金利政策の影響により、金利低下に伴う貸出金利の減少に拍車がかかっており、債券利回りも低下したため、収益の悪化が深刻化している。また、地方銀行等のフィンテックの活用に向けた取り組みが加速化しており、今後、地域における金融サービスがますます多様化していくことが見込まれるほか、金融庁が昨年秋に導入した「金融仲介機能のベンチマーク」などへの対応が求められている。

2. 県下12信用金庫の業績

平成28年度の経営状況は、上記1のとおり経済環境のなか、県下12信用金庫の預金、貸出金とも昨年度に比べ増加している。

預金の期中平均残高は7兆5,232億円（前年度比2.6%増）、貸出金の期中平均残高は3兆7,310億円（前年度比0.9%増）となった。

しかしながら、損益状況は、業務純益は229億円（前年度比▲11.1%）と減益、経常利益は212億円（前年度比▲9.8%）及び当期純利益は156億円（前年度比▲8.4%）とともに減益となった。

また、自己資本比率は16.87%（加重平均）と、前年度に比べ▲0.26ポイント低下した。

3. 協会の主な事業

(1) 総会、理事会及び理事長会の開催

総会は通常総会を2回開催し、一般及び特別会計の「平成27年度事業報告及び決算」、「平成29年度事業計画及び予算」のほか「分担金（均等割及び事業分量割）」の取扱いについてそれぞれ付議し可決された。

理事会及び理事長会は定例会を11回開催し、県協会の運営、その他重要問題等について審議決定したほか、全国信用金庫協会、信金中央金庫、東海地区信用金庫協会及び県協会等の諸会議の動向について報告を行った。このほか、役員改選に際して、一般社団法人法上の代表理事（会長及び副会長）、常務理事の選任のための臨時理事会を1回開催した。

(2) 委員会等の開催

委員会については、経営対策委員会は11回開催したほか、業務の共同化推進を主とした事務管理委員会を4回開催した。また、事務管理委員会傘下の会議として口座振替等業務にかかる幹事金庫会議を2回開催した。

体育委員会を2回開催(体育委員会は別途抽選会3回開催)したほか、人事教育委員会を2回開催した。

その他、常勤監事連絡会を4回、年金友の会専門部会を2回、窓口情報交換連絡会を1回、研修担当役席会議を2回開催した。

また、昨年度に引き続き、理事長会メンバーによる海外視察は、協同組織発祥の地である欧州の金融機関のビジネスモデル等を学ぶため、平成28年7月2日(土)から7月9日(土)まで、スウェーデン及びデンマークへの視察を実施し、12金庫12名の全理事長が参加した。

マスコミとのパイプ強化のための取り組みとして、県内マスコミ支局長クラスとの懇談会を1回開催し、会員金庫や協会の活動についてのPRに努めた。

「反社会的勢力」対策として、7月及び12月時点で、静岡県内12信用金庫の「反社データ」の更新を行った。

更に、静岡大学との連携講座については、4月15日(火)～7月22日(金)の期間で、14講座について富士信用金庫3講座、しずおか信用金庫3講座、掛川信用金庫3講座、東海財務局静岡財務事務所3講座、信金中央金庫2講座により講義を行い、無事、平成28年度の連携講座を終了した。また、平成29年3月には「寄附講座」と名称を変更し、今後、5年間の同講座にかかる協定及び覚書を締結した。

(3) 共同化事業の推進

県内12信用金庫の手形交換業務等の共同化を実施する目的で協会内に平成26年5月に設立した「信金静岡共同センター」において、平成27年4月には手形・小切手発行システムを稼働し4金庫が共同化したほか、口座振替業務、本人確認資料のイメージ処理化の業務については、出向職員、パート職員の増員による体制整備を図り、平成27年11月から順次共同化に切り替え、平成28年6月末までに12金庫の共同化が実現した。また、イメージ処理化後の口座振替依頼書等を共同で保管することも併せて実施した。

また、このほかの共同化事業として、「磁気キャッシュカードの共同発行」を平成28年12月から順次、実施したほか、「預金通帳の共同調製」についても平成29年3月に業者決定を行い次年度の本格実施への道筋をつけた。

(4) 各種研修会等の開催

経営者から一般職員にわたる各種研修会を開催した。経営者研修会は平成28年11月に開催。また、女性活躍推進法に基づき各金庫が策定した行動計画策定にあつての課題点等を踏まえ、メガバンクの先進的な取り組み事例を紹介したセミナーを開催した。

職員研修講座は13講座、延べ31回、受講者610名が参加したほか、11月にアフラックと共催で「保険の窓販」に関するセミナーを開催し、平成29年1月には、静岡県信栄研究会と合同で研修会を開催した。

(5) 景況調査の実施

平成17年度以降実施している景況調査について、毎四半期の年4回取りまとめ記者発表を実施した。

また、東海財務局静岡財務事務所、日本銀行静岡支店のほか、静岡経済研究所等の民間団体へも情報提供を行った。

(6) 体育大会の開催

信用金庫役職員の健康増進と親睦を目的として、軟式野球、テニス、卓球及びサッカー大会を開催した。

(7) 地域貢献活動

高齢者を狙った振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害防止策として、警察と連携し「預手プラン（高齢者に対する預金小切手利用の推奨）」の推進やキャッシュカードによるATMでの振込制限などを実施した。更に、県内市町が展開する「高齢者見守りネットワーク事業」への協力や静岡県くらし環境部が展開する消費者被害啓発活動「188で見守り隊」に参加し啓発誌の配布等の協力を行った。

交通事故防止の取組として「SINKIN370万ピカッと作戦」と称し、12信金の役職員約400名が参加して、県民に自発光式反射材などを配布する取組（平成28年度は7月14日に実施し街頭で5品目、14,100個配布）を21年間連続して取り組んだ。

このほか、県内の高校生等の国際的視野の人材育成を目的とした静岡県教育委員会「ふじのくにグローバル人材育成基金」への寄附を行ったほか、県内労働者のワークライフバランスの推進等による中小企業の生産性の向上を目的とした働き方改革に関することについて、静岡労働局との間で「働き方改革についての包括連携に関する協定」を平成28年12月6日に締結した。

(8) その他

協会業務量の増加等に伴う事務局事務室の狭隘化等を解消するため、平成28年12月3日に事務室の移転を実施し、事務環境の整備を行った。

第1 会員の異動状況

平成28年度末会員信用金庫数 12信用金庫
平成28年度会員の異動はなし

第2 役員の異動状況

平成28年度末の役員は次のとおりであり、年度中の異動状況は下記のとおりである。

会 長	御室健一郎	(浜松信用金庫理事長)
副 会 長	稲田精治	(三島信用金庫理事長)
副 会 長	田形和幸	(しずおか信用金庫理事長)
常務理事	永野英行	(県協会事務局 長)
理 事	小滝勝昭	(富士信用金庫理事長)
理 事	牧田和夫	(焼津信用金庫理事長)
監 事	紅野正裕	(沼津信用金庫理事長)
監 事	守田泰男	(遠州信用金庫理事長)
監 事	足羽由美子	(税 理 士)

就 任：平成28年6月22日

常務理事	永野英行	(県協会事務局 長)
監 事	紅野正裕	(沼津信用金庫理事長)

退 任：平成28年6月22日

監 事	篠原 寛	(富士宮信用金庫理事長)
-----	------	----------------

第3 総 会

1. 第1回通常総会

日 時 平成28年6月22日(水) 15時15分

場 所 静岡グランドホテル中島屋 3階「サフラン」

上記において会員12信用金庫出席のもと開催し、下記議案について付議可決された。

議 案

第1号議案 平成27年度事業報告の件

- 第2号議案 平成27年度収支決算報告の件
第3号議案 一般社団法人静岡県信用金庫協会役員選任の件

2. 第2回通常総会

日 時 平成29年3月24日（金）12時15分

場 所 静岡信用金庫追手町ビル会議室

上記において会員12信用金庫出席のもと開催し、下記事案について付議可決された。

議 案

- 第1号議案 平成29年度事業計画の件
第2号議案 平成29年度予算の件
第3号議案 平成29年度経費分担に関する規程の件

※ 以下の具体的な内容については、主たる事務所（静岡市葵区追手町3-11）に備え付け、閲覧可能